

平成27年12月 データから見た業界の動き

■ 概 況

山梨県内の12月景況を全業種のD I値（前年同月）で比較すると売上高で6ポイント、収益状況6ポイント、景況感14ポイントと改善傾向にあるものの景気回復感は全く感じられない。

夏以降の中国経済の減速を受けて製造業を中心にメーカーや親会社からの製品の受注減に加え、製品単価の値下げや短納期による人件費の上昇など業況の悪化を訴える業種が拡大している。

また、暖冬の影響によりエアコンをはじめとする暖房機器や冬物衣料の販売不振、山梨特産の「甲州ころ柿」の不作など、季節需要が大幅に引き下げられ需給バランスを崩した業種が小売業を中心に多く報告された。

一方、ガソリンや軽油価格の低下が製造業や運送業等の企業のコスト負担を和らげる要因となっているが、安値競争に加え暖冬による暖房用の灯油の需要減はガソリンスタンドの経営を圧迫している。

建設業関連では、公共事業の大幅な減少や技能士の不足から地域や企業間で景況感の格差が広がっており地方経済の景気低迷が長引いている要因となっている。

今後、中国経済の減速が引き続き懸念され、その影響等による資金繰りや技術者等の人材不足、価格競争の激化など、県内の中小・小規模企業の多くは、先行きの不透明感が強まる中で、不安を募らせている。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	おせち用の生食材や加工製品が好調のため全体の売上は前年同月比105%。
食料品（洋菓子製造）	自社ブランド製品や輸出は前年並みだが、量販店や専門店向け商品、OEMが低調のため全体の売上は90.4%。
食料品（菓子）	円高傾向になり輸入原材料の単価が値下がりし経費減に繋がった。
繊維・同製品（織物）	業界全体として閑散期のため低調。
繊維・同製品（アパレル）	暖冬のため冬物衣料の動きは悪いが、春物の受注は増加傾向。
木材・木製品製造	厳しい状況はなくなってきた。
窯業・土石（山砕石）	平成27年4～11月累計で製品出荷量が前年比13.5%以上減少し、さらに諸資材の高騰により利益率が下降気味のため、設備投資ができない。
鉄鋼・金属①	全体的に低迷。
鉄鋼・金属②	悪い状態が続いている。
一般機器	燃料価格や原材料仕入れ価格が値下がりし製造コストが低下した一方、依然として国内需要の縮小と海外経済の減速を受け、厳しい状況が続く見込み。

電気機器①	物量の変動が激しく納期やコスト面が厳しく短納期、低コストでの受注のため、原材料、人件費が割高となり受注量が増加しても採算が難しい。
電気機器②	中国経済が悪化しているため、国内の仕事量も減少している。
宝飾(研磨)	先行き不透明。
宝飾(貴金属)	売上の減少が経営を圧迫し、資金繰りも厳しい。

● 非製造業

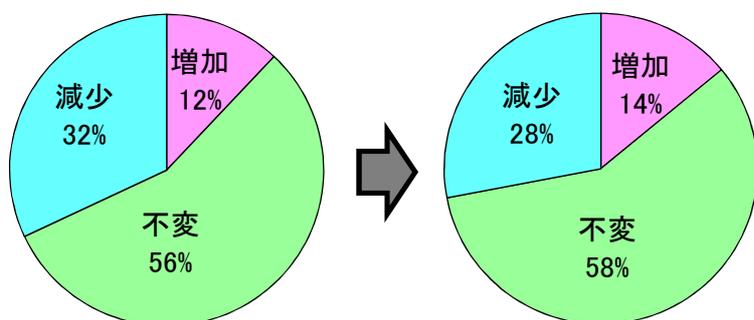
小売(青果)	暖冬により野菜類が安値で推移し価格も下落した。しかし、甲州名産の「ころ柿」の入荷量は前年比3/1程度しかなく年末の売上減少の要因になった。
小売(食肉)	暖冬によりエアコン等の暖房機器は前年対比大幅ダウンしたが、テレビは前年を上回った。
小売(石油)	原油価格の下落が止まらないため卸価格も値下がりしたが市場価格がそれ以上に下落しておりガソリンスタンドの経営は逼迫している。また、季節商品である灯油も暖冬により前年対比50%減少しているガソリンスタンドもある。
商店街①	近隣のデパートのお歳暮、クリスマス商戦や甲府市観光課主催のイベント等も重なり賑わった。
商店街②	若干だが例年より年末の賑わいがあった感がある。飲食業は中国人観光客で賑わっていたが、冬物衣料は販売不振になっている。
不動産取引	住宅地の値下がりが止まらない。
宿泊業	12月は、中国国内の決算期により日本への旅行客数は減少傾向。
美容業	12月業況は、全体的に繁忙。独立開業する店が増加傾向にあるため、競争激化になってきている。
警備業	公共工事が年度末に集中するため警備員不足が続き、受注要請に応じられない状況が続いている。
建設業(総合)	12月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ件数で20%、請負金額で25%減少。12までの累計では、件数、請負金額ともに11%減少。
建設業(鉄構)	県内は中弛み傾向が続いているため、首都圏を中心とした物件に頼っている。そのため企業格差が拡大している。
設備工事(電気工事)	経営者の高齢化や事業縮小を理由に組合員の脱退が増えている。下請の傾向が強い職種のため、元請会社の景気状況が直接影響している。
設備工事(管設備)	技能士不足による人件費増や円安による原材料の上昇分を価格競争により転嫁できないなど、経営厳しい状況にある。
運輸(タクシー)	売上は、前年同月比21%増。しかし、年間売上は前年比マイナス。
運輸(トラック)	原油価格が下落傾向にあるが、今後の産油国等の動向に加え燃料価格の変動を注視している。ドライバー不足解消に向けて荷主との値上げ交渉等、業界が一丸となって取り組みを始める予定。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2014/12	2015/11	2015/12	2014/12	2015/11	2015/12	2014/12	2015/11	2015/12
売 上 高	-15	-25	-20	-23	3	-10	-20	-8	-14
収 益 状 況	-15	-20	-25	-13	13	3	-14	0	-8
景 況 感	-35	-25	-30	-23	-13	-3	-28	-18	-14

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

売上高（前年同月比）

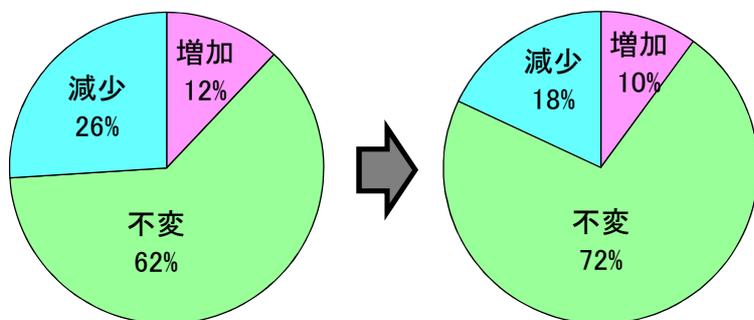


平成26年12月

平成27年12月

- ・ D I 値 ▲14（前年同月比+6）
- ・ 業種別 D I 値
 - 製造業 ▲20(前年同月比▲5)
 - 非製造業 ▲10(前年同月比+13)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製造業 5ポイント改善
 - 非製造業 13ポイント悪化

収益状況（前年同月比）

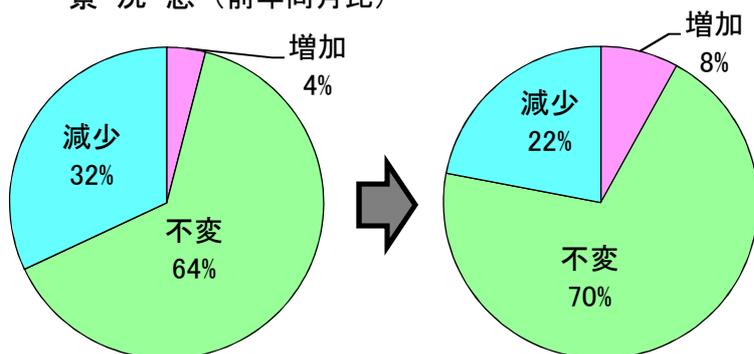


平成26年12月

平成27年12月

- ・ D I 値 ▲8（前年同月比+6）
- ・ 業種別 D I 値
 - 製造業 ▲25(前年同月比+10)
 - 非製造業 +3(前年同月比+16)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製造業 5ポイント悪化
 - 非製造業 10ポイント悪化

景況感（前年同月比）



平成26年12月

平成27年12月

- ・ D I 値 ▲14（前年同月比+14）
- ・ 業種別 D I 値
 - 製造業 ▲30(前年同月比+5)
 - 非製造業 ▲3(前年同月比+20)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製造業 5ポイント悪化
 - 非製造業 10ポイント改善